

# 2013 年度秋季大会実施報告

大会・企画委員会, LOC

## 秋季大会実施報告 (大会・企画委員会)

2013 年度秋季大会は、10 月 7 日 (月)～10 月 9 日 (水) に神奈川県民ホール及び産業貿易センターにおいて開催され、855 名 (会員 682 名, 非会員等 173 名) の参加がありました。プログラム確定後の一般講演発表数は、口頭 240 件, ポスター 207 件の合計 447 件で、そのうち、口頭 1 件, ポスター 1 件の発表がキャンセルされました。このほかに、若手学術奨励賞記念講演が 3 件ありました。

昨年度同様、講演申し込み、予稿原稿アップロード、事前参加登録と参加登録料及び投稿料の支払いは、ウェブサイト上でおこない、事前参加登録済みかつ年会費納入済みの会員には、名札と領収書を予稿集と共に事前送付し、受付を通らずに入場できるようにしました。事前参加登録数は 451 名、そのうち、年会費納入済みの会員は 304 名で、初日の朝の受付は、やや混雑しました。予稿原稿の書式が守られていない事例が散見されましたが、ほとんどの講演申し込みを無事に受け付けることができました。448 件の講演申し込みがあり、そのすべてを採択しましたが、プログラム確定前に、1 件のキャンセルがありました。

今年度は、特別シンポジウム「教育を通じた地震災害軽減の現状と課題」(主催:特別シンポジウム実行委員会)を大会初日に開催したほか、理事会主催による、理事会で議論されている案件についての説明会を大会 3 日目の昼休みに開催しました。一般講演発表の口頭発表会場は 4 会場、口頭発表の時間は質疑応答も含め 15 分としました。若手学術奨励賞受賞者 3 名による記念講演を大会初日に実施するとともに、今大会では 2 件の特別セッションが企画され、活発な議論がなされました。今年、ジョン・ミルン没後 100 年にあたるため、理事会により、ポスター会場の一角に特別ブースが設けられ、ドキュメンタリービデオの上映がおこなわれました。また、若手学術奨励賞記念講演終了後に、加藤会長より

ブースの紹介がありました。

今年度も、学生による優れた研究発表を奨励し、研究発表技術の向上を目的とした「学生優秀発表賞」の審査をおこないました。口頭発表とポスター発表のどちらも対象です。本年度の審査員は代議員、過去の若手学術奨励賞受賞者、大会・企画委員会から 23 名が選出され、学生会費適用申請をしているのべ 83 名の発表を審査しました。8 名の受賞者は本ニュースレター (35 ページ) にて発表されています。

秋季大会の準備、運営面では、海洋研究開発機構の LOC の皆様に全面的にお世話になりました。横浜大会の円滑な運営はまさに LOC の皆様の献身的なご尽力によるものであり、大会・企画委員会から心よりお礼を申し上げます。来年度の秋季大会は 2014 年 11 月 24 日 (月)～26 日 (水) の日程で、朱鷺メッセ:新潟コンベンションセンターを会場に開催される予定です。LOC は東京大学地震研究所と新潟在住の地震学会員にお引き受けいただいています。今年度に引き続き、会員の皆様の積極的な投稿・参加をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、各セッションの座長および学生優秀発表賞の審査員をお引き受けくださった皆様、ご協力ありがとうございました。

## LOC からの報告 (LOC)

2013 年度秋季大会 (横浜大会) は、海洋研究開発機構が LOC を務めさせていただきました。大会・企画委員会から LOC の要請があったのは静岡大会の後でしたので、すでに横浜大会開催まで 2 年を切っていました。まずは大会会場を確保しなければなりません。実は、横浜という大都市での会場探しは大変困難でした。有力な会場候補であったパシフィコ横浜は随時予約可能であるため、2 年前の時点で、秋の学会シーズンの空きはなし。なにより予算面の条件を満たせません。パシフィコ横浜で開催すればいいと軽く考えて引き受けた LOC でしたが、

## 一般公開セミナー報告 (LOC)

いきなり暗礁に乗り上げてしまいました。そこで相談したのが、横浜観光コンベンションビューローです。コンベンションビューローは、国内外からの観光客、コンベンションの誘致および開催支援等を行うことにより、地域における観光の振興を図る組織で、横浜だけでなく全国各地に存在しているはずで、コンベンションビューローに条件を提示し、いくつかの候補会場を紹介いただきました。そのほとんどは予算面から断念するほかありませんでしたが、準公的施設である神奈川県民ホールは、唯一、開催できる可能性がある会場でした。

しかし、準公的施設のコンサートホールである県民ホールの一般利用の申し込みは利用1年前からで、実際に利用できるかどうかは抽選によります。もし、抽選で外れることになっては秋季大会の開催そのものが危ぶまれますから、なんとしてでも、この時点で予約にこぎつけなければなりません。神奈川県のコネクションをたどり、関係課に何度も足を運び、大会の重要性を訴え、ご理解いただき、やっと特別利用枠の推薦をいただくに至りました。ただし、県民ホールの管理自体は財団に移行されているため、特別利用枠にも審査があり、それに通らなければなりません。最終的に、審査通過の知らせを聞いた時は、この上ない安堵感がありました。これでやっと横浜大会が開催できると、結局、会場の確保に5か月も費やしました。

紙面の関係で割愛しますが、その後も開催に向けて様々な準備が続きます。海洋研究開発機構には多くの地震学会員が在籍しているので、手分けしてうまく処理することができましたが、昨年の函館大会のように学会員の少ない組織がLOCを務めた場合は、相当な負担だろうと推察されます。今後の大会運営では、そのあたりの改善が必要と考えます。

最後になりましたが、大きなトラブルもなく大会および関連イベントを終了することができたのは、神奈川県と横浜市、横浜観光コンベンションビューローなど、ご協力いただいた組織の皆様のおかげです。LOC一同、心から感謝しております。どうもありがとうございました。

今年の秋季大会一般公開セミナーは「神奈川・横浜の備え～関東大震災から90年」をタイトルとし、大会前日の10/6(日)に、海洋研究開発機構と共催の特別セミナーとして横浜・桜木町駅近くのはまぎんホールにて開催しました。参加者は記名頂いた方で334名と、500人定員のホールが手狭に感じられる程の熱気に包まれました。

セミナーは、2件の講演と、地元行政関係者も加えたパネルディスカッションの構成でした。また、セミナー開始前や休憩時間に向け、横浜市史資料室による震災写真パネルなどのロビー展示を行いました。

講演はまず、名古屋大学減災連携研究センター武村雅之教授から、関東大震災時の、震源断層の真上で被災した横浜と神奈川や相模湾沿岸の被害の紹介があり、先人からの教訓の受け止め方や、横浜公園に東京の被服廠跡同様に多くの市民が避難し、火炎旋風にも襲われながら死者が僅かという幸運な事例もあったが、横浜では殆どの家屋が倒壊して火災や死者の増加を招いたこと、伊豆に至る相模湾沿岸での広範囲に亘る津波、山津波の被害などの話がありました。

つぎに、海洋研究開発機構地震津波・防災研究プロジェクト金田義行プロジェクトリーダーから、先の東日本大震災での被害、特に震度5強程度での首都圏の様子として人の滞留の分析の紹介、南海トラフや首都圏直下型地震で起こりうる想定外の事例の紹介がありました。

パネルディスカッションは、「神奈川の地震・津波災害への備え」として神奈川県温泉地学研究所里村幹夫所長、横浜市立花正人危機管理監、講演者の武村教授、加藤照之地震学会会長の4名をパネリストに迎え、進行は海洋研究開発機構小平秀一プログラムディレクターが行いました。武村教授から、関東大震災時と現代の条件の違い、立花危機管理監からは、神奈川県の地震想定を受けた横浜の備えや情報提供の詳しい紹介があり、公の備え(公助)に加えた市民の自助、共助の重要性についても強調されました。里村所長からは、神奈川の地震と津波の想定や県内の断層などの紹介、箱根火山での県独自の地

震観測の話題提供がありました。

なお本セミナーは、科研費 2553003 の助成を受け、神奈川県と横浜市総務局からの後援をいただきました。

#### 大会プログラムの修正（大会・企画委員会）

##### ○発表のキャンセル

- D21-09 秋田県沿岸における津波堆積物調査  
# 鎌滝孝信（秋田大地創セ）・  
細矢卓志（中央開発技術セ）
- P1-74 津波の逆伝播による 2012 年 12 月 7 日  
三陸沖地震の震源位置の推定  
# 青木朝美（神戸大・理）・  
吉岡祥一（神戸大・都市安全セ / 理）